名作を書いた女たち

池田理代子
挿画・宇野亞喜良

中公文庫

中公文庫

名作を書いた女たち

定価はカバーに表示してあります。

1997年12月3日印刷
1997年12月18日発行

著者　池田理代子

発行者　笠松　巌

発行所　中央公論社　〒104 東京都中央区京橋2-8-7　振替 00120-4-34
TEL 03-3563-1431(販売部)　03-3563-3664(編集部)

©1997 CHUOKORON-SHA, INC. / Riyoko Ikeda

本文・カバー印刷 三晃印刷　用紙 王子製紙　製本 小泉製本

ISBN4-12-203012-9　C1195　Printed in Japan

乱丁本・落丁本は小社販売部宛お送り下さい。送料小社負担にてお取り替えいたします。

学院图书馆
书 章

中公文庫

名作を書いた女たち

池田理代子

中央公論社

目次

第一章　ミステリーを生きた女　13
『オリエント急行殺人事件』のアガサ・クリスティー
明かされない過去　14
内気な少女　17
電撃的婚約　21
幸福が音をたてて壊れるとき　24
失踪、そして離婚　27

第二章　第二ステージまでたどりつけなかった女　31
『風と共に去りぬ』のマーガレット・ミッチェル
生まれながらのヒロイン　32
奔放に反抗　39

此为试读，需要完整PDF请访问：www.erton

二人の男　42
不吉な予言　47

第三章　孤独に生き急いだ女　51
『ジェーン・エア』『嵐が丘』のブロンテ姉妹
運命と闘う　52
深い深い心の傷　54
挫折の日々　60
魂の書　65

第四章　ファンタジーに生きた女　69
『赤毛のアン』のルーシー・モード・モンゴメリ
早熟な少女　70
父の再婚　79

ベストセラー作家の悩み　84
恋の結末、結婚の始まり　86

第五章　一歩先を行く女　89
『悲しみよこんにちは』のフランソワーズ・サガン
スキャンダラスなにおい　90
洗練された感性　93
「伝説の女」にはなりたくない　98
「いつも誰かを愛していなくてはいけない」　102

第六章　恋より大切なものに生きた女　107
『たけくらべ』の樋口一葉
死ぬほど悲しかったこと　108
負けず嫌いのプライド　113

にがい恋 116
絶頂期の死 120

第七章　人生を二度生きなおした女

『ピーターラビット』のビアトリクス・ポター

衝動に生きるとき 126
キノコに夢中！ 128
秘密の婚約 135
四七歳の変身 138

第八章　男女関係を変えた女

『第二の性』のシモーヌ・ド・ボーヴォワール

恋多き男 144
親友の狂死 148

「これからは僕があなたを引き受けた」 151
「必然の愛」に苦しむ 154

第九章　心を裸にして激しく生きた女 161
『みだれ髪』の与謝野晶子
人見知りする良家のお嬢さん 162
運命のライバル 165
恋に走る 169
愛の試練も受けとめて 173

第十章　シングルを選んだ女 179
『若草物語』のルイザ・メイ・オルコット
愛情が生きている 180
二四歳のひとりだち 182

傷心のとき　188
わたしにもできることがある！　191
第十一章　死と背中合わせに生きた女　197
『アンネの日記』のアンネ・フランク
心の暗闇　198
少女の目　199
隠れ家で　204
最後まで自分の顔をもち続けて　207
第十二章　幸福を呼びこんだ女　215
『大草原の小さな家』の
ローラ・インガルス・ワイルダー
片田舎の出来事　216

父さん、母さんが教えてくれたこと　220
別れの夜　225
もう一つの「女の一生」　230
参考文献　233

挿画　宇野亞喜良

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertong

名作を書いた女たち

第一章　ミステリーを生きた女

『オリエント急行殺人事件』のアガサ・クリスティー

Agatha Christie

一八九〇―一九七六年。イギリスのミステリー作家。私立探偵エルキュール・ポアロや老嬢探偵ミス・マープルなどを主人公にした作品で、世界的ベストセラーを次次に生みだす。

明かされない過去

ある人物の生涯を語るとき、本人にとってはさしたる重要な意味をもたない出来事でも、彼、あるいは彼女が社会的に有名で重要な人物である場合、世間にとって決して忘れることのできないエピソードがあるものである。

イギリスが生んだミステリーの女王、アガサ・クリスティーの失踪事件などはまさしくその代表的な例といえるかもしれない。

最初の結婚の終末にあたって彼女が引き起こしたこの事件は、当時のイギリス中を興奮のるつぼに投げいれたが、八五年に及ぶ彼女の生涯のなかで、それはわざわざ自伝に書きおくほどの大した意味のある事件ではなかったのかもしれない。

あるいは、自分でも二度と思い起こしたくない記憶だったので、かえって自伝ではふれられなかったのかもしれない。

アガサ・クリスティーの名前で知られる、世界でもっとも人々から愛読された偉大な作家は、じつはクリスティー夫人であるよりもアガサ・マローワン夫人であった時間のほう

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertong